

# 「自然と人と街並みが調和する木造建築」 住む人の心も、故郷の街も 豊かにする家づくり

鈴木工務店



本社およびモデルハウス「家の展示館」

主様と大工、職人がテーブルを囲んで食事をしながら家づくりの想いを語り合う。建築に携わるすべての人の心を一つにし、真心のこもった家の完成をめざすためだ。

木材や自然素材を主に使用するのは、木の家が日本の風土に合った“普通の家”と考えるから。木の家づくりは永年培った知恵と日々多様化する建材に対応する知識が不可欠である。「本物」の素材を料理できる設計、大工、職人集団で、数十年先を見据えた住み継ぐ家をつくり上げる。また、家づくりは完成して終わりではない。定期点検をはじめとする家守りで、安心な生活空間を提供し、継続することで資産価値の低下を防ぐ。

家の佇まいは、地域の環境に大きな影響を与える。その地域に“残したくなる普通の家”を建てることで、故郷の街がより豊かになるように努めている。

鈴木工務店(町田市能ヶ谷、鈴木亨社長、042・735・5771、Eメール info@suzuki-koumuten.co.jp)は、「自然と人と街並みが調和する木造建築」をモットーに家づくりを行う。人生の最大イベントである「家の建築」は、住む人の暮らしの記憶が詰まった「心の故郷」となる場づくりであり、また「資産となる家」でなければならぬと考えている。

同社の家づくりは、完成物件とモデルハウス「家の展示館」(小田急線鶴川駅から徒歩8分)の見学からスタートし、お施主様の「暮らし方」を聞き取り、敷地をよく読み取って設計に反映させていく。高性能なパッシブデザイン、機能的なプランニング、よく練られたディテールによる美しい空間をご提案する。

お互いの顔が見える仕事をするために、着工前、築150年の萱葺民家(鈴木社長生家)可喜庵でお施



築150年の萱葺民家「可喜庵」